

# ウィルかわら版

will

平成二二年  
一二月号

第五号

編集 吉澤 隆  
協力 内田和也  
(株吉澤企画)

くさて、今年も私たちウィルの本社である神奈川の吉澤企画では、葬儀派遣スタッフの大量募集の時期が始まりました。今月はその中で最近気になったことをお話しいたします。☆裏面では、祝退院の高屋さんをご紹介します！

今年で15年になる吉澤企画ですが、採用したばかりの新人派遣スタッフさんを見ると、毎年数人ほど、出勤初日の朝に失踪してしまう人がいることに気が付きます。

何のことを言っているかというところ、出勤しようという意思はあったのだと思いますが、途中で迷子になったり別の事情があったりで、間に合わなくなっていました。そのまま失踪してしまい、連絡の取れなくなってしまう人がいるのです。日々出勤先が変わる派遣の仕事ならではのお話です。

約束の時間にこだわってくれていること自体はありがたいことなのですが、それが思い通りにならないと思うところで投げ出してしまおう人が、年齢問わず、意外と多いようです。

テレビゲームをやっている、上手いかなと電源を切ったりリセットボタンを押して初めからやり直す、なんて場面を見かけます(私自身もやった記憶があります)。

現実の重ねると、失踪してしまうというのとは当人にとって、この「リセットボタン」と同じような意味があるのかなと思っています。

出勤初日に失敗してしまったからそれまでのことは全部ナシにしてまた初めからやり直そう。そんな感じでしょうか。

でも、そんなことをやっているところ、どこで働いても苦勞が多いのではないのでしょうか。

厳密に言えば、ゲームみたいに初めっからやり直しがきくわけじゃないですから。やり直すたびに、どんどん条件が悪くなりますし、選択肢も狭

まります。年もとりますし、大事な人の信頼を失うことだってあると思います。

でも本当は、プロ野球なんかを見てみるとそうですが、シーズン初めに好調だったからと言って、そのチームが優勝するというケースは、そんなに多くないのですし、むしろ不調だったチームが盛り返していくところなんて、何度も見てきたと思います。

いちいちやり直していたら、勿体ないですよ。でも、そういうことをサラッとやれちゃう人が、増えているようです。



偉そうなことを言いましたが、自分の身に照らして考えてみると、自分とは全く無縁のことだとは言い切れない様な気がします。

自分が新人の時は、たまたま良い先輩に恵まれたとか、たまたま迷子にならなかったとか、たまたま乗っていた電車が遅れずに到着してくれたとか。

ちよっとしたつまづきで、リセットボタンを押すような可能性を持ちながらも、周りの人に、実は助けられていたのかもしれない。

「まったく今の若い奴らは」というのは簡単ですが、一步譲った見方をすれば、ひよっとしたら、変わってしまったのは若い人たちではなくて、先輩である私たちの関わりの方なのかもしれません。

変えていくとしたら、若者達に「変わってくれ」って頼むより、自分達の関わり方を変える方が手っ取り早いですよね。まずは自分から。気をつけたいと思います。



## ～ウィル/12月の行事予定～

- 12/8 19:00～さいたま建設的な生き方を学ぶ会 (大宮、ウィル)
- 12/9 19:00～東京建設的な生き方を学ぶ会 (大森、東西株)
- 12/20 13:00～東京はがきまつり (中野サンプラザ)
- 12/24 6:00～大宮駅西口駅前街頭清掃  
お気軽にお問い合わせください!





さて、今回で3回目となりまして、ウィルの客様紹介ですが、先月の予告通り、高屋俊夫さんをご紹介いたします。

高屋さんは、なんと元「国鉄スワローズ(現在のヤクルトスワローズ)」のピッチャーなのです。

とづくに取材をしている予定だったので、9月より体調を崩されて入院をしていたため、やっとお話を伺うことが出来ました。

北区東大宮に高屋家の二男として生まれ、お兄さんの影響で中学(日進中学)から野球を始めたそうです。プロ野球選手としては遅いスタートを切ったのですが、中学時代から早速頭角を現し、県大



そして、満面の笑み↓

奈良町のちよいワルオヤジ祝退院です!

会で優勝。大宮高校に進学すると、一年からエースピッチャーとして活躍を始めたのです。

埼玉県では敵なしだった高校時代は、試合をする相手を求めて東京に進出し、早稲田実業と、よく対戦をしていました。ちょうどその頃の早実には、あの王選手がいたのだそうです。

高校を卒業すると、国鉄スワローズにスカウトで入団。直接練習では、いきなり大先輩の金田正一投手とキャッチボールをすることになり、「緊張のあまり投げる球が相手まで届かなかった」というような新人時代のエピソードを語ってくれました。同時期を飾った名選手としては、長島、王、金田選手や、プロレスに転向していた馬場選手などがいました。

記録としては、1961年、プロ野球の二軍最多勝投手になり、シーズン13勝という記録は近年まで塗り替えられることのなかった大記録なのです。補足すると、その年の高屋さんが一軍と二軍の両方で活躍していたことを考える

と、フルシーズンに満たないなかでの13勝という数字は、いまだ色あせることのない記録だと言われています。



優勝投手だけが手にする、優秀投手賞の楯です。お願いして、見せていただきました。

引退してから、草野球に出場してムキになって投げているなら、バレー一年間出場停止になったなんてこともあったそうです。そりやそうですよ!

実は高屋さんは、奥さまを亡くされたときのお葬式で縁があったのですが、その後度もお会いしていたのに、私は、半年以上も高屋さんがピッチャーだったことを知りませんでした。全然自慢しないんですよ。野球好きの皆さん、一度お話を伺うと面白いですよ!

一緒に習いごと、しませんか?

ウィル大宮サロンは、人が集まるスペースにしたいと思って、葬儀社らしからぬゆつたりとしたスペースで、男所帯にしては、比較的小奇麗にしています。

せつかくですから、今やっているメンタルヘルスだけでなく、絵手紙教室やペン習字、その他習いごとをやってみたいと思つています。良いアイディアや、ご希望がありましたら、ぜひ私たちに知恵を貸してください。

毎年年末に、レーサー時代の同窓会みたいな草レースをやっています。今年も社内チームで参戦してきました。



結果は...触れないでください(笑)

まだまだ現役で行けるかも!...うそです。  
レーシングスーツのお腹がちよつときつくなつてきましたが、やっぱりレースは楽しい!



葬儀社さんのゼッケンはやっぱり今年も4番でした